

北朝鮮による日本人拉致被害者家族支援署名の提出にあたって

1. 提出団体の概要

(1) UAゼンセン

2,448組合、約164万名の組合員が集まった日本最大の産業別労働組合。

(2) UAゼンセンヤングリーブス

UAゼンセンの中で、活動を通じて仲間の連帯意識を醸成し、若手リーダーや活動家の発掘と育成の役割を担う。

2. 取り組み趣旨

そもそも…UAゼンセンは労働条件に関わる取り組みだけでなく、一国民として国・社会のあり方やその方向性についても、労働組合としてしっかりした見識と行動が必要と考えており、重要な国民的課題については加盟組合・組合員の意識啓発を図りつつ、世論喚起に向けた運動を進めていくことを方針としてこの活動を行っている。

2016年2月、北朝鮮は、拉致問題の解決に向けての進展が全く見られないにも関わらず、すべての日本人に関する包括的調査の全面中止及び特別調査委員会の解体を宣言した。しかし、日本政府はこれを受け入れず、引き続き北朝鮮側に対し、2014年5月の合意に基づき、一日も早く全ての拉致被害者を帰国させるよう強く求めている。UAゼンセンとしても日本人拉致被害者全員の救出が一刻も早く実現するよう、昨年に続き組織の内外へ向け更に世論喚起を行うため、政府が設定する「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」(12月10日から同月16日まで)の期間を含む、2016年12月から2017年2月を支援活動強化月間に設定し取り組みを進めた。この取り組みで集まった署名の提出とともに日本政府に対して早急な解決に向けて取り組むことを要請する。

3. 提出署名筆数

383,811筆

4. これまでの取り組み経過

2005年 UIゼンセン同盟第4回定期大会にて拉致問題の早期解決を目指す緊急動議を採択。

以後、全国各地で街頭アピール行動や「しおかぜ」サポーターグッズの購入・着用運動に継続して取り組む。

2009年 ヤングリーブスの全国統一行動として第9回定期大会(2010年)までにすべての都道府県支部が署名活動に取り組むこととした。

2011年 署名62,299筆を中野拉致問題担当大臣へ提出。

2013年 署名61,691筆を古屋拉致問題担当大臣へ提出。

2014年 署名112,277筆を古屋拉致問題担当大臣へ提出。

2015年 署名237,711筆を山谷拉致問題担当大臣へ提出。

2016年 署名207,397筆を加藤拉致問題担当大臣へ提出。

5. 今後の予定

継続して行っているUAゼンセン組織内での署名活動やカンパ活動、都道府県支部ヤングリーブスによる街頭署名活動に加え、関係団体と連携して各地域にて街頭宣伝活動を行っていく。

以上